



送る舟・飾る船

鳥と龍が支えるアジアの舟山車

● 仏像を戴き、神を招き、福を運び、魂を送る……

● 人を乗せ、物を積みあげて水面を、あるいは海上をひた走る「船」。

● 原初の舟は木を刳りぬき、木片を集めて造られた、人や物を包みこむ水上に浮かぶ器であった。

● 人は、母胎から生まれる。

● 胎児は、「母という容器＝舟」に守られ、この世に現れる。

● 死せる者もまた、舟に乗る。

● 死者の魂を送る「棺」は、ときに「ふね」と呼ばれていたという。

● 世界各地で、海の彼方には他界や彼岸があり、

● 神々や死者、靈魂がすむ……と信じられた。

● 舟は死者の魂を乗せ、神靈を招き入れて、

● 此岸と彼岸を水平に結ぶもの。

● とくに宝船になり、人びとに福を運ぶ器となる。

● ミャンマー、タイ、日本。意匠をこらした舟山車の登場……

● アジアンデザイン研究所が主催する

● 第2回国際シンポジウムの主題は、「送る舟・飾る船」。

● アジア各地で仏像を乗せ、神を招き、

● 魂を運ぶ「舟形の山車」のデザインに注目する。

● 雨期明けのミャンマーでは、

● 仏像を乗せた黄金の霊鳥船が湖上を巡行し、

● タイでも同時期に、龍を象る華麗な舟山車が数多く登場する。

● 夏の盛りの日本では、賑やかに飾られた舟山車が街を練り歩き、

● 人形の歴史絵巻をあしらうオフネが山の中を曳かれてゆく。

● ミャンマー、タイ、日本。飾りつけに工夫をこらし、

● 神話的意味を異にする舟山車が、デザインを競う……



Research Institute of Asian Design
RIAD / KDU



【ミャンマー】……仏像を乗せたカラウエイ(迦陵頻伽)船の舟山車

【アジアデザイン研究所】は、「アジアのかたちとデザイン」を総合テーマとし、次世代の未来をひらく

アジアデザインの方法論を創出することを目標として二〇一〇年四月に開設された。

生命力にみちた「アジア独自のデザイン語法」の追求

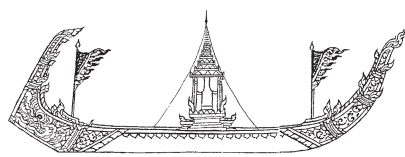
アジア文化が抱きこむ「豊かな造形力の再発見」などをテーマとする。

● 二〇一〇年に開催された第一回国際シンポジウムでは、

中国の山車である「鼓亭」「抬閣」、バリ島の「神輿」、イランの「生命樹の山車」、

インドの「寺院山車」、龍を飾るタイ国王の「葬儀山車」……などのデザインが紹介され、

その記録が、「動く山」アジアの山車」として刊行された(左右社刊)。



【タイ】……アユタヤ王朝時代の御座船。龍頭をもつ



【タイ】……龍を模す舟山車(チャクプラ祭/スラタニ)

【プログラム】

●第1部 映像上映

A——バリ島「王家の葬儀に曳きだされる山車」

……ナンシー・タケヤマ(シンガポール・南洋理工大学准教授)

B——イラン「アシュラ祭の生命樹の山車」

……モジュガン・ジャハンアラ(イラン)

開会挨拶……齊木崇人(神戸芸術工科大学学長)

イントロダクション……杉浦康平(RIAD / KDU所長)

●第2部 [ミャンマー]

黄金の霊鳥「キャラウエイ」を飾る仏像巡行船のデザインと象徴性

……ゼイヤー・ウィン(神戸芸術工科大学RIAD研究員/立教大学アジア地域研究所研究員)

●第3部 [タイ]

チャクプラ(仏像巡行祭)に曳きだれる、龍船パレードのデザインと象徴性

……ホーム・プロムオン(タイ・マヒドン大学講師)

映像上映/スラタニのチャクプラ祭……黄 國賓(神戸芸術工科大学准教授)

タイの伝統文化にみる「鳥」と「蛇」のシンボリズム

……ソーン・シマトラン(タイ・シルパコン大学准教授)

●第4部 [日本]

舟山車さまざま十長野の「オフネ」のデザインと象徴性

……三田村 佳子(日本民俗学会会員)

●第5部 [ディスカッション]

ゼイヤー・ウィン+ホーム・プロムオン+ソーン・シマトラン+

三田村 佳子+齊木崇人+杉浦康平 今村文彦(司会)

* 入場無料です。参加希望者は事前に下記担当者までご連絡願います。